

専大スポーツ

No. 358

大会結果 予定は体育会ホームページ(専大ホームページ「専大スポーツ」からアクセス)を確認ください
専大スポーツ編集部 web(http://sensupo.web.fc2.com) 大会結果を配信しています

国内での自己ベストをマークした近藤



全日本スプリント選手権

1000m 近藤が優勝

全日本スプリントスピードスケート選手権(12月29、30日、明治北海道十勝オーバル)に、近藤、池田崇将(経営3・白樺学園高)、辻本一史(経営1・帯広農高)が出場。近藤が初日の1000mを一分10秒12で優勝。国内大会での自己ベストタイムとなった。

600m地点まで羽賀亮平(日本電産サンキョー)の後を追っていたが、後半に追いついた。近藤は「力を使わずにスピードが出てきた。スケーティングが安定している」と練習の効果を語り、「久々の優勝で、どのように喜んでいいのか分からなかった」と戸惑いながらも笑顔を見せた。「ソチ五輪後、記録が

土屋が総合2位

スピードスケート・全日本選手権



得意の長距離種目で結果を出した土屋

全日本スピードスケート選手権が12月22、23日に長野市オリンピック記念アリーナで行われ、専大からは8人が出場。土屋良輔(経営3・孺恋高)が5000m(6分28秒89)と1万m(13分28秒40)をトップで滑

のラップタイムを同じに滑っている。今大会では後半にタイムが落ちてしまった」と反省点を述べた。「長距離種目ではない1500mでもタイムが良かったことが総合の結果につながった」と振り返った。

ワールドカップ前半戦が終わり「コンディション調整がうまくいった。後半戦も同じように追い込み、さらに体を作り直していく」と意気込んだ。また、小川翔也(文3・池田高)が総合で5位。近藤太郎(経営3・駒大苫小牧高)が5000m(36秒50)で1位となった。(岡野希春・経済3)写真も派遣が決定した。

近藤、土屋とも国際大会に出場

今シーズン好調を持続する近藤、土屋の2人が、日本代表として国際大会に相次いで出場する。ワールドカップ競技会では前半戦に続き、第5戦(1月29、31日、ノルウェー・スタヴァンゲル)に近藤、土屋の派遣が決定した。近藤は1000mと1500mの2種目、土屋は5000mに出場する。

5人に川島記念特別功労賞

萩間、福島、サッカー部、鈴木、庄司、卓球部、高橋、野球部



前列左から鈴木、矢野学長、日高理事長、庄司。後列左から福島、萩間、高橋

在学中に五輪、アジア大会、ユニバーシアードなどの国際スポーツ大会で上位の成績を収めた選手を顕彰する川島記念特別功労賞の授与式が12月9日、神田キャンパスで行われた。日高義博理事長(川島記念会長)から表彰状、矢野建一学長から記念メダルが5人に手渡された。

受賞者は▽萩間大樹(経済4・瀬谷高)▽福島(経済4・静岡学園)▽高橋(法4・静岡学園)▽高橋(法4・韓国光州)で高橋は金メダル、ほかの4人は銅メダルを獲得した。本紙8月号既報。2013年に次いで2回目の受賞となった卓球部の鈴木は「これからも学業とスポーツの両立を目指していきたい」と語った。

レスリング・全日本選手権

フリー57kg級 中村が3位

専大からは16選手出場。レスリングの天皇杯全日本選手権(リオデジャネイロ五輪・代表選考に入学した。同70kg級の松尾佑亮(商2)・いなげ総合学園

が12月21、23日、代々木第二体育館で行われた。専大からは16選手が出場し、フリースタイル57kg級で中村倫也(商3・花咲徳栄高)が3位に入賞した。

最終日に出場した第3シードの中村は2、3回戦をともにテクニカル勝負を勝ち進んだ。準決勝も先

に点を奪い、4-2とリードして第1ピリオドを終えた。しかし、第2ピリオドでは相手の猛攻に遭い逆転される。終了間際に粘りをみせ2点返すもあと一歩及ばず、6-8で敗れた。

3位決定戦では相手を圧倒し、わずか44秒でテクニカルフォール勝ちした。中村は「コーチや家族などたくさんの人たちが応援に来てくれたので、期待に応えられた。準決勝で敗退したことは悔しいが、ここで腐ってはいけません。今度も目標を高く持ち続けていきたい」と語った。

富士山訓練合宿



凍った雪上での歩行訓練



明け方の富士山を歩く

山岳部が11、12月の2度にわたって富士山訓練合宿を行った。いずれも山梨県側の吉田口から入山。1回目(11月27、29日)は天候は雪が少なく、風も強かった。2回目(12月4、6日)は雪が少なく、風も強かった。2回目(12月4、6日)は天候は雪が少なく、風も強かった。2回目(12月4、6日)は天候は雪が少なく、風も強かった。

専大スポーツ編集部は「ニュース専修」の中に毎月2ページ情報を掲載しているほか、専大スポーツWEB記事の作成、年2回発行するフリーペーパー「専Satation」の取材編集を主な活動としています。昨年10月から1、2年生を中心とした新体制となり、先輩たちにアドバイスをいただきながら取材活動を進めています。現在は、ウィンター競技の取材のほか、3月中旬発行予定の

「ファンを増やしたい」

飯塚恒成(文2) 「専Satation」15号の取材を進めています。同号の内容は「卓球部の強さに迫る」「専大アスリートのルーティンワーク」などを予定しています。「専Satation」は専大スポーツには載せられない情報や、ふだんは紙面の都合で掲載の機会が少ない部などを取り上げて、体育会のファンを増やすことを目的としています。今後も専大スポーツ編集部が活動にご期待ください。